

Ⅲ 第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂(案)

資料3

1 基本的な考え方

(1) 位置づけ

第2期総合戦略は、氷見の未来を切り拓いていくための根幹となる施策の方向性を共有することにより、あらゆる方々の知恵や力を結集し、様々な主体との協働などを通して、オール氷見で地方創生の取組を推進していくための計画として策定するものです。

(2) 地方創生に向けた基本的な考え方

「平成」から「令和」へと元号が改まり、新たな時代を迎えたことから、本市では、2019（令和元）年を、人口減少社会に立ち向かい持続的な発展に向けて新時代を切り拓く「地方創生推進元年」と位置づけ、人々の絆を大切にし、次代を担う子どもたちをはじめ、市民が誇りと魅力を感じ、活力に満ち溢れる「ふるさと氷見」を創造し、全国の地方創生のモデルとなるようまちづくりを進めています。

地方の人口減少と地域経済の縮小という負のスパイラル（悪循環の連鎖）を断ち切るには、地方に、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たな人の流れを生み出すこと、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくりだしていかなければなりません。

とりわけ、本市では、若年層、女性の市外流出が人口減少に大きく影響しており、子どもの出生数低下の要因の一つとなっていることから、若者や女性がいいきと活躍できる働き場や、魅力を感じて暮らし続けることができる地域づくりを最重点に進めていきます。

また、本市は、豊かな里山里海に囲まれ、自然、歴史、文化、食といった豊富な観光資源に恵まれていることから、観光資源に磨きをかけ滞在型のインバウンド客を呼び込むことで観光産業の振興を図るとともに、観光をはじめ他産業との連携による農林水産業の成長産業化を重点的に進めていきます。

さらには、地方創生は息の長い政策であり、中長期的にこれを支える人材の育成が不可欠となることから、重要な視点として、次代を担う子どもたちが、地域の資源を活用する体験や地域の課題を知り解決方法について考える機会など、氷見をフィールドとして地域との関わりを生かした魅力的な教育機会を創出するとともに、ICT教育やプログラミング教育の充実など、将来自分の望む所で働くことができるよう必要なスキルを身につける機会を提供していきます。

新たな視点として、飛躍的に発展している情報通信技術などの未来技術がもたらす将来の社会変化を見通し、具体的な課題解決や地域活性化に取り組んでいくことが極めて重要となります。

A I や5 Gといった未来技術の活用は、地域が直面する様々な課題への対処に加

え、モノやサービスの利便性を高めるとともに、産業や生活などの質を飛躍的に向上させ、それが人を呼ぶ好循環を生む起爆剤となります。何より、地域の特性に応じて様々な形で活用でき、少子高齢化・人口減少の課題に悩む地方においてこそピンチをチャンスに変える力を持っています。

こうした未来技術を先取りした実証実験等を積極的に取り入れるなど、将来に希望の持てる新たな社会システムづくりにチャレンジしていきます。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた取り組み

2019年12月以降、世界各地において人から人への感染が確認された新型コロナウイルスの感染症の拡大により、氷見市においても地域経済は大きな打撃を受け、産業の基盤そのものが脅かされていることに加え、感染症拡大防止のため企業活動やイベントの自粛や縮小等により、地域内外の人の交流機会が減少し、観光客などの交流人口も大きく落ち込んでいます。

一方で、感染症を契機に東京圏などの都市部への人口集中のリスクが改めて浮き彫りとなり、地方への移住や就業への関心が高まっています。この機運を地方への大きなひと・しごとの流れにつなげていくためには、デジタル化の推進など新たな日常生活への対応を進めつつ、恵まれた自然環境や人々の絆の強さなどの地域の魅力を高め、人を引き付ける地域づくりに引き続き取り組み、その魅力をしっかりと発信していくことが重要となります。

(4) 第2期総合戦略の推進のためのポイント

次の3つの基本戦略に従い、地方創生に資する具体的な取組を推進します。

なお、それぞれの基本戦略には、取組の効果を検証するため、数値目標を設定します。

基本戦略

- I 住みたい街 ～いのちと暮らしを守る～
- II 働きたい街 ～働く場所の創出で元気な氷見市へ～
- III 育てたい街 ～ストップ・ザ・少子化～

第2期では、地方創生を実現するための戦略体系について、第1期の4つの基本目標を見直し3つの基本戦略に組み換えます。

【第1期】



また、以下の組織を中心に総合戦略を推進するものとします。

- ・ 氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会（令和元年5月改編）
産学官金労言や市民団体、女性、若者、子育て世代の代表など幅広い分野の有識者で構成（計20名）
- ・ 氷見市まち・ひと・しごと創生推進本部
庁内横断組織として、市長、副市長、部局長等で構成（計40名）
- ・ **地域再生推進法人**
地域再生に取り組むNPO法人や株式会社を地方公共団体の補完的な立場で地域再生を行う地域再生推進法人として指定

（5）第2期総合戦略の計画期間

国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性を図る観点から、2020年度から2024年度の5年間とします。

（6）PDCAサイクルの確立

総合戦略の推進にあたっては、氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会において、施策、事業の効果や進捗状況をKPI等で毎年検証し、見直しや改善を図っていきます。

（7）持続可能な開発目標への取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択さ

れた人類及び地球の持続可能な開発のための2030年までに達成すべき課題とその具体的な目標です。

「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むもので、「すべての人に健康と福祉を」、「働きがいも、経済成長も」、「住み続けられるまちづくりを」などの持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットを掲げています。

国においても、国内実施、国際協力の両面から取組を進めるとともに、地方創生の視点にも立って、地方自治体における持続可能なSDGsの達成を目指すこととしています。

本市においても、SDGsが掲げる17の目標と第2期総合戦略に掲げる各施策の方向性は一致していることから、第2期総合戦略を推進することでSDGsの達成を目指します。



2 基本戦略と基本目標及び基本的方向、具体的施策

基本戦略Ⅰ 住みたい街



住みたい街日本一を目指し、若者や女性をはじめ多様な世代が氷見に魅力を感じていきいきと住み続けることができるまちづくりを進めていきます。

【重要目標達成指標】		基準値	目標値
住みたい街と思う市民の割合（定住意向）※		79.7% (R1)	85.0% (R6)
人口社会増減率 （純減数／期首人口）		△0.49% (R1)	△0.33% (R6)
若者（15歳～39歳）の転出超過数（転入者数－転出者数）		△1,101人 (H27～R1)	△528人 (R2～R6)
健康寿命	男性	76.94歳 (H29)	77.50歳 (R6)
	女性	81.48歳 (H29)	82.00歳 (R6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

① 基本目標1 若者・女性のふるさと氷見での定着と還流（Uターン）

i 地方創生を支える人材・組織の育成

氷見の将来を支える人材・組織を育成するため、小中学生や高校生が地域の課題等を学ぶ探究型教育及び地域づくりやコミュニティ活動に取り組む各種団体の育成を推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
ぶり奨学プログラム登録者のうちのUターン者数	7人 (H30)	36人／年間 (R2～R6)
親子地域産業体験に参加した人数	20人 (R1)	120人 (R6)
おらっチャ創生支援事業の取り組み件数	10件 (H30)	20件／年間 (R2～R6)

【具体的な取組】

- ・ぶり奨学プログラムの継続
- ・小中学生への起業家教育など探究型教育の推進
- ・氷見高等学校における教育の魅力化、HIMI学の充実
- ・地域づくりやコミュニティ活動に取り組む各種団体の育成

ii 若者・女性の定着・Uターン支援

氷見の次代を担う若者が地域において、いきいきと活躍できる環境を構築します。また、進学、就職等で市外に転出した女性のUターンを増やすため、IJU応援センターをはじめとして、首都圏等からのUターンへの働きかけに努めるほか、仕事と暮らしを合わせて支援します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
おらっちゃ創生支援事業のうち「価値提供型事業」に取り組んだ件数	6件 (H30)	14件／年間 (R2～R6)
20代・30代の女性のUターン者数	70人 (H30)	80人／年間 (R2～R6)

【具体的な取組】

- ・若者が主体となって実施する活動に対する支援
- ・首都圏等からの移住相談の充実
- ・子育て世帯への支援の充実

iii ふるさと氷見への郷土愛の育成

ふるさと氷見に誇りと愛着を持ち、家族や地域の絆を大切にしながら、未来の郷土を支え、社会の発展に貢献できる人材を育成します。

【重要業績評価指標】		基準値	目標値
氷見が好きだと感じている市民の割合 ※		82.6% (H30)	85.0% (R6)
地域の行事に参加している児童・生徒の割合	小学生	74.2% (R1)	80.0% (R6)
	中学生	70.2% (R1)	80.0% (R6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

【具体的な取組】

- ・ 幼児期から高校生のふるさと教育の推進や拠点の整備
- ・ 親子で郷土愛を育むイベントの開催

② 基本目標２ 「里山、里海での生活が同時にかなうまち氷見」への移住・定住（ＩＪターン）と多様な交流の実現

i 氷見暮らしの魅力や充実した子育て・教育・福祉等の情報発信

暮らしやすさなどの氷見の魅力を移住・定住を考えている都市部住民等に確実に訴求するとともに、多様な情報発信ツールを用い、国内外の人々のニーズを的確に捉えた情報発信などを充実します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
市ホームページ及びＩＪＵ 応援センターホームページ のアクセス件数	１７３万件 (Ｈ３０)	１９０万件／年間 (Ｒ２～Ｒ６)
ＳＮＳ市公式アカウント フォロワー数	１，５５０人 (Ｒ１)	３，０００人／年間 (Ｒ２～Ｒ６)

【具体的な取組】

- ・ 暮らしやすさなどの氷見の魅力の大都市圏への情報発信の強化（インスタグラム、ツイッターの活用）

ii 子育て世帯、起業人材、クリエイティブ人材などの移住・定住支援

市外で暮らす子育て世代や起業・クリエイティブ人材などの移住・定住支援の取組を充実します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
ＩＪＵ応援センターを通して 移住した人数	２５人 (Ｈ３０)	４０人／年間 (Ｒ２～Ｒ６)

【具体的な取組】

- ・ 定住マイホーム取得等補助制度の充実
- ・ 移住者用モデル住宅の整備

iii 多様な関係人口の創出・拡大

氷見の里山、里海にある地域資源の活用や地域が抱える様々な課題解決のため、氷見に縁のある都市住民、企業、大学及び学生との連携を図るとともに、氷見を応援する方が加入する「氷見きときとファンクラブ」からの本市の魅力あふれる情報発信等により、関係人口の創出・拡大につなげます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
氷見きときとファンクラブ 会員数	0人 (R 1)	2, 500人 (R 6)

【具体的な取組】

- ・企業や大学等との連携の強化
- ・「氷見きときとファンクラブ」の充実・拡大
- ・ふるさとワーキングホリデーの推進
- ・ふるさと納税の取組強化、企業版ふるさと納税の導入

iv スポーツ・芸術・文化等を通じた交流人口の拡大

氷見の地域活性化を図るため、スポーツイベントや芸術・文化イベントを開催し、国内外の人々との交流を拡大します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
主要なスポーツイベント参加者数	27, 291人 (H 30)	27, 400人／年間 (R 2～R 6)
新文化交流施設のイベント参加者数	0人 (R 1)	64, 000人／年間 (R 4～R 6)

【具体的な取組】

- ・春の全国中学生ハンドボール選手権大会の継続
- ・スポーツ合宿の誘致
- ・サイクリングコース等の整備及びサイクルスポーツイベント拡大と魅力発信の強化
- ・ぶり・棚田等の地域資源を活かした交流イベントの開催
- ・新文化交流施設の整備及び多様な芸術・文化イベントの開催

V 国際交流の推進

関係団体等と連携し、海外の友好都市との交流を推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
海外の友好都市との交流した人数	27人 (R1)	100人／年間 (R2～R6)

【具体的な取組】

- ・海外との友好都市交流

③ 基本目標3 安全で安心して暮らせる基盤の充実

i 災害に強い社会の実現

近年、想定を超える記録的な豪雨などの自然災害が発生していることから、国土強靱化に向けた取組を一層推進するとともに、災害時における情報伝達、避難誘導、復旧活動等が円滑に行える体制を整えます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
防災士の資格を持つ人数	79人 (H30)	204人 (R6)
SNSを活用した情報伝達システムの利用者数	0人 (R1)	3,000人 (R6)
急傾斜地崩壊防止対策 (県・市)の実施済箇所数	159箇所 (H30)	162箇所 (R6)
防災重点ため池の改修 (県)実施箇所数	6箇所 (H30)	14箇所 (R6)
河川浚渫(県・市)実施箇所数	6箇所 (H30)	48箇所 (R6)

【具体的な取組】

- ・災害情報等を的確に把握し住民に避難情報等を迅速かつ正確に届けるシステムの構築
- ・指定避難所の耐震化
- ・国土強靱化の推進

ii 地域医療の充実

市民が住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるようにするため、中核病院である金沢医科大学氷見市民病院と市内の医療機関の連携が必要不可欠であることから、現在の医療機関数を維持し、医師や看護師の確保に努めることで、医療機関の連携を強化し、地域医療の充実を図るとともに、感染症拡大に伴う医療現場の負担の軽減に努めます。

また、地域の救急搬送体制を強化するため、高岡市と連携し、新たに柳田地内に出張所を設置します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
市内の医療機関の数	5 1 医療機関 (R 1)	5 1 医療機関 (R 6)
救急覚知から現場到着までに要する時間	8. 6 分 (H 3 0)	7. 0 分 (R 6)

【具体的な取組】

- ・医学生及び看護師に対する修学資金の貸与
- ・消防広域化・出張所の整備

iii 地域包括ケアシステムの推進

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができる社会を実現するため、地域ぐるみで支え合う地域包括ケアシステムを推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
福祉相談窓口の開設地区数	9 地区 (H 3 0)	2 1 地区 (R 6)

【具体的な取組】

- ・福祉相談窓口の開設
- ・地域福祉活動サポーターの養成
- ・在宅医療・介護の連携によるネットワークの確立
- ・介護人材の育成・確保対策の推進

iv 安全で安心な日常生活が送れるまちの実現

近年、本市の犯罪発生率は減少傾向にありますが、犯罪が起きにくい環境整備を

図るため、地域の防犯力を強化します。また、イノシシが市街地にも出没し、市民生活を脅かしているため、追い払いや有害捕獲を実施するとともに、国や県等の関係機関等と連携して総合的な被害防止対策を推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
鳥獣による人身及び物損被害の発生件数	4 件 (H 3 0)	0 件／年間 (R 2 ～R 6)
防犯カメラの設置補助件数	0 件 (H 3 0)	2 5 件 (R 6)

【具体的な取組】

- ・鳥獣被害防止対策の推進
- ・防犯カメラの設置費の補助

④ 基本目標 4 持続可能な地域社会の体制・仕組みの確立

i 小規模多機能自治の基盤整備と地域内分権の推進

旧小学校区単位の 2 1 地区すべてにおいて、将来にわたり地域の人々の暮らしを守っていくことができるように、その核となる地域づくり協議会の設立を支援し、その活動に必要な拠点づくりや人材育成等を推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
地域づくり協議会の設置数	7 地区 (H 3 0)	2 1 地区 (R 6)

【具体的な取組】

- ・地域づくり協議会の設立支援と活動拠点の整備

ii 多様性を認め合える社会づくり

障がい者、高齢者、性的マイノリティ、外国人や移住者など様々な人が、暮らしやすい共生社会づくりを推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
平等と多様性が尊重されていると思う市民の割合 ※	4 0 . 5 % (R 1)	6 0 . 0 % (R 6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

【具体的な取組】

- ・男女共同参画の推進
- ・人権啓発事業の推進
- ・多文化共生の推進
- ・インクルーシブ教育（障がいのある者となない者が共に学ぶことで共生社会の実現を目指す教育）の推進

iii 交通弱者の移動手段の確保

市内や氷見市から高岡市までの生活路線バスをはじめ、市内で展開しているNPOバス（公共交通空白地有償運送）を支援するとともに、未来技術の活用も視野に多様な移動手段の導入を図り、日常生活に必要な移動手段を確保します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
市内のどこかへ行きたいときに、利用できる移動手段があると思う市民の割合※	85.0% (R1)	90.0% (R6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

【具体的な取組】

- ・地域交通の確保
- ・多様な移動手段の導入
- ・JR城端線・氷見線のLRT化、直通化の検討

iv Society 5.0の実現に向けた技術の活用

未来技術を活用し、地域課題の解決や地域の発展につながる取組を進めるとともに、デジタル人材などの専門技術を持った人材の育成・確保等を推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
Society 5.0の実現に向けた技術を活用した取組件数	0件 (H30)	4件 (R6)

【具体的な取組】

- ・AI、IoT、5Gなどの未来技術を活用した具体的な地域課題の解決や地域活性化の促進
- ・地域課題を解決するためのデジタル人材の育成・確保

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）による利便性の向上

⑤ 基本目標5 いきいきと暮らし続けるための健康的自立

i 市民の健康意識の醸成（「自分の健康は自分自身でつくり、育てる」）

市民一人ひとりが、主体的に生活習慣病の予防に向けた健康づくりに取り組めるよう健康意識の醸成を図り、健康診査の受診を推進します。また、新しい生活様式への対応を呼びかけ、感染症の拡大防止に努めます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
特定健診の受診率	46.0% (H30)	60.0% (R6)

【具体的な取組】

- ・がん、生活習慣病等の健康診査受診の推進
- ・未病・生活習慣病予防対策の推進
- ・新しい生活様式の実践と徹底、感染リスクが高い状況の回避呼びかけ

ii 良い生活習慣の定着による健康増進プログラムの推進

健康寿命を延伸するため、地域ぐるみの健康づくり活動などを推進し、氷見きときと健康ポイントの普及促進に努めます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
メタボリックシンドローム 該当者・予備群の割合	34.8% (H30)	32.7% (R6)

【具体的な取組】

- ・氷見きときと健康ポイントの普及促進
- ・生活習慣病の重症化の予防対策の推進

iii 地域づくりによる介護予防対策

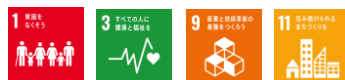
介護予防のため、高齢者が通い集える「住民主体の通いの場」の設置を推進し、100歳体操などの運動をとり入れた、介護予防事業への積極的な参加を促します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
住民主体の通いの場の実施 箇所数	80箇所 (H30)	140箇所 (R6)

【具体的な取組】

- ・きときと100歳体操など住民主体の通いの場づくり

基本戦略Ⅱ 働きたい街



まちなかの賑わい創出や滞在型観光の推進、産学官連携による地場産業の育成や、創業支援、企業誘致などに取り組み、「所得の向上」や「雇用の創出」を図ります。

【重要目標達成指標】		基準値	目標値
納税義務者 1 人当たり所得		260万円 (H30)	270万円 (R6)
雇用保険適用事業所の被保険者数		8,833人 (H30)	9,000人 (R6)
新規求人数	総数	4,922人 (H30)	5,000人 (R6)
	フルタイムのみ	2,577人 (H30)	2,600人 (R6)
観光消費額		168億円 (R1)	186億円 (R6)

① 基本目標 1 氷見市内での経済活動の規模拡大

i 地域内消費の促進

地域内商品券の普及など、地域内での消費活動の拡大を図ります。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
地域内商品券販売額	4,000万円 (H30)	5,000万円／年間 (R2～R6)
日頃から氷見市の産品を積極的に買っている市民の割合 ※	56.6% (R1)	60.0% (R6)

※市民アンケートによる。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合

【具体的な取組】

- ・市内食品加工業等による市内生産物の積極的な採用
- ・地域内商品券の販売促進
- ・エネルギーの地産地消の推進

ii まちなかの賑わいの創出

空き店舗への新規出店や、各種イベントの開催等によりまちなかの賑わいの創出につなげます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
中心市街地への出店件数	3 件 (R 1)	3 3 件 (R 6)

【具体的な取組】

- ・エリアマネジメントによるまちなかの賑わいの創出
- ・チャレンジショップスペース（複合店舗）の整備
- ・アパルトマルシェの開催

iii 創業（事業承継）の支援

創業のためのサポート体制を強化します。また、まちなかの空き店舗や空き家の活用を促進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
創業件数 (事業承継も含む)	1 0 件 (R 1)	7 0 件 (R 6)

【具体的な取組】

- ・創業支援等事業計画に基づく支援団体と連携した創業支援（創業塾など）
- ・創業時に係る経費の一部を補助

iv 既存企業の競争力強化

既存企業の競争力強化を図るため、売上拡大、生産性向上のための支援に取り組みます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
ビジネスサポートセンター の相談件数	0 件 (R 1)	1, 0 0 0 件／年間 (R 2 ～ R 6)

【具体的な取組】

- ・既存企業の売上拡大、生産性向上のための設備投資に対する優遇または支援措置
- ・ビジネスサポートセンターの設置による企業へのサポート体制の充実

② 基本目標２ 氷見ならではの魅力・強みを生かした観光振興

i 地域資源を生かした滞在型観光の推進

海も山も近い氷見ならではの魅力ある地域資源を活用し、観光客の滞在時間を延ばすことで、観光消費額の向上を目指します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
観光入込客数	2 1 7 万人 (R 1)	2 4 0 万人／年間 (R 2～R 6)
平均滞在時間	3 時間 2 1 分 (R 1)	3 時間 4 8 分 (R 6)

【具体的な取組】

- ・農林水産業と観光産業との連携強化（農泊・体験型観光の推進）
- ・魚食文化の継承・発展
- ・世界農業遺産への登録と活用
- ・イベント等の開催による魚食文化の発信
- ・食を活用した観光PRの実施と観光消費の喚起
- ・まんがのまちづくりの推進、まんがを生かした観光客の誘致と滞在時間の延伸
- ・新交通システムの利用拡大

ii インバウンドの誘致

多言語での案内表示、受入環境の整備など、インバウンドへの対応を充実させます。また、海外プロモーションを積極的に行い、インバウンドの誘致を推進します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
外国人宿泊客数	7, 0 1 7 人 (H 3 0)	1 5, 0 0 0 人／年間 (R 2～R 6)

【具体的な取組】

- ・訪日外国人観光客の誘致
- ・インバウンドの受け入れ環境の整備

- ・海外へのプロモーションの実施
- ・キャッシュレス決済の促進

③ 基本目標３ 氷見の海・里・山の幸の魅力や、特性を活かした産業振興

i 新たな食の氷見ブランドの確立

海、里、山の魅力ある食を活用した新たな氷見ブランドを確立させ、地域の産業を盛り上げます。６次産業化に向けた支援や、新たな農産物の生産性向上のための支援を行います。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
都市部で開催する氷見の食に関するイベントの参加者数	０人 (Ｒ１)	２，２００人 (Ｒ６)
自然栽培・有機栽培を行う農業者数	３６人 (Ｈ３０)	４０人 (Ｒ６)

【具体的な取組】

- ・氷見ブランドの新たな価値創出に向けたプロモーションの推進
- ・新たな食のブランド（農業生産物、加工品）の開発支援
- ・地域の特色ある農業の６次産業化の促進
- ・環境にやさしい農業の推進
- ・産学官連携による新産業の創出

ii 既存のブランドの販路拡大

既存のブランドの販路拡大のための生産力向上支援等を行います。また、氷見産食材を学校給食等に積極的に活用することで生産者の所得向上につなげます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
学校給食等での氷見産食材の使用割合	5 % (H 3 0)	3 0 % (R 6)
氷見牛の飼育頭数	7 1 5 頭 (H 3 0)	8 6 0 頭 (R 6)
地場産木材の生産量	1 6, 7 4 7 m ³ (H 3 0)	2 5, 0 0 0 m ³ (R 6)
地域ブランド調査における魅力度の順位	1 7 7 位 (H 3 0)	1 0 0 位 (R 6)

【具体的な取組】

- ・ 既存のブランドの維持・販路拡大のための生産規模の拡大支援
- ・ 学校給食等での氷見産食材の活用促進（食材コーディネーターの配置）
- ・ 森林資源の活用（ひみ里山杉を中心とする市産材の生産量拡大、販路開拓）

iii 第一次産業の6次産業化の推進

地場産品の6次産業化を推進し、生産者の所得向上や地域産業の確立を目指します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
6次産業化の取り組みによる新商品開発数	8 品 (H 3 0)	1 2 品 (R 6)

【具体的な取組】

- ・ 他産業との連携による農林水産業の成長産業化

④ 基本目標４ 産業人材の育成・確保

i 農林水産業・商工業の担い手の育成・確保

新たな技術の活用や就業支援を充実させ、農林水産業・商工業の担い手不足の解消に努めます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
集落営農組合組織化件数 (任意の組合を含む)	42 団体 (R 1)	50 団体 (R 6)
事業承継件数	1 件 (R 1)	6 件 (R 6)
リカレント教育を受けた女性の数	0 人 (R 1)	3,200 人 (R 6)

【具体的な取組】

- ・若者の第一次産業への就業増加のための取り組みの実施
- ・創業にチャレンジできる機会の提供
- ・スマート化による省力化・生産性向上のための支援
- ・農林水産業の仕事の魅力を伝える場づくりと新規就業者支援
- ・リカレント教育の推進
- ・特定地域づくり事業協同組合の活用

ii 働きがいを感じることができる魅力的なしごとの創出

働く意欲のある人が、個人の能力を発揮し、安心して働き続けられる環境づくりに取り組みます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備に取り組む企業の数	77 社 (R 1)	80 社 (R 6)
高齢者の就職率	39% (H 30)	42% (R 6)
障がい者の就業状況	78.2% (H 30)	80.0% (R 6)
外国人の日本語教室への参加者数	94 人 (H 30)	95 人／年間 (R 2～R 6)

【具体的な取組】

- ・女性が働きやすい労働環境の整備の支援
- ・働き方改革の推進（市内企業への働きかけ）
- ・障がい者の活躍機会の増加
- ・外国人受け入れ企業への支援

⑤ 基本目標 5 企業誘致の推進

i 地元雇用に結びつく優良企業や研究機関等の誘致

企業誘致のためのインフラ整備、誘致活動を促進し、市内の雇用創出につなげます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
市内へ進出した企業または 研究機関等の件数 (企業立地助成金を新たに交付した 件数)	0 件 (R 1)	5 件 (R 6)

【具体的な取組】

- ・企業誘致活動の強化
- ・サテライトオフィス開設やテレワーク体制整備の支援
- ・企業誘致に必要な用地の造成・インフラの整備
- ・能越自動車道 I C 周辺の利活用の促進

基本戦略Ⅲ 育てたい街



結婚、妊娠、出産、子育てとライフステージごとのきめ細やかな支援を実施するとともに、子どもの生きる力を育成する学校教育を充実させ、育てたい街日本一を目指します。

【重要目標達成指標】	基準値	目標値
婚姻数	141件 (H29)	150件 (R6)
出生数	189人 (R1)	230人 (R6)
子ども女性比	0.165 (R1)	0.202 (R6)

① 基本目標1 結婚の希望をかなえ、子どもを中心として多様な家族が幸せを実感できる生活の実現

i 人生設計を考える機会の増加

女性の社会進出が進み、晩婚化が進んでいます。将来のライフプランを早期に考える機会を増やし、個々の結婚や出産などの希望をかなえ、幸せな人生となる市民が増えることを目指します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
将来の夢や目標を持っている中学生の割合	71.1% (R1)	72.5% (R6)
将来の人生設計を持っている高校生の割合	—% (R1)	75.0% (R6)

【具体的な取組】

- ・結婚に関心を持ち、人生設計を考える機会となるセミナー等の開催
- ・将来のプランを早期に考える機会の提供（中学生・高校生対象）
- ・結婚についての意識啓発の取組の強化

ii 出会いの場の創出、地域の応援・支援による婚姻率の向上

多様な出会いの場を創出するとともに、縁結びおせっかいさんによる引き合わせや支援により、交際につなげ、成婚へ結びつけます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
おせっかいさんによる引き合わせ件数	22件 (H30)	40件／年間 (R2～R6)

【具体的な取組】

- ・婚活イベント等の開催による出会いの場の創出
- ・地域や企業・団体等で結婚を応援・支援する取り組みの推進
- ・縁結びおせっかいさん事業の推進

② 基本目標2 妊娠・出産に関わる負担の軽減

i 安心して出産できる環境の整備

市内に唯一ある分娩施設を維持・存続させ、安心して出産できる環境を整備します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
市内分娩施設数	1施設 (R1)	1施設 (R6)

【具体的な取組】

- ・産科医の確保

ii 妊娠・出産に関わる経済的・精神的負担の軽減

不妊治療の助成の拡大や子ども・妊産婦医療費の助成など妊娠・出産に関する経済的支援を拡充します。また、子育て世代包括支援センターによる相談体制を強化し、妊娠・出産に係る精神的な負担を減らします。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
不妊治療に係る助成申請件数	40件 (R1)	55件／年間 (R2～R6)

【具体的な取組】

- ・不妊相談の実施、不妊治療に係る助成内容の充実
- ・子ども・妊産婦医療費の助成
- ・出生祝（地域商品券）・木製玩具の贈呈

iii 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の推進

子育て世代包括支援センターをワンストップ窓口として、妊娠・出産・子育てに係る切れ目のない支援をより充実させていきます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
出産前後の相談件数	1, 350件 (R 1)	1, 500件／年間 (R 2～R 6)

【具体的な取組】

- ・子育て世代包括支援センターをワンストップ窓口とする支援体制の充実
- ・市と関係機関との連携の強化
- ・小児科医の確保

③ 基本目標3 多様な家族に対するきめ細やかな支援、子どもの健やかな成長を育む保育の充実

i 子育てに関わる経済的・精神的負担の軽減

地域の子育て支援拠点施設等の活用により、子育ての不安や悩みを抱える人を受け入れ、地域での子育て支援を推進します。また、給食費補助の上乗せなど、県内で最も手厚い子育てへの経済的支援を継続していきます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
子育てや教育に不安を感じたとき身近に相談できる人がある市民の割合 ※	76.1% (R 1)	80.0% (R 6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

【具体的な取組】

- ・第2子以降（1歳以上児）の保育料の無償化、家庭で子育て応援金の給付
- ・幼児教育・保育（3歳以上児）の保育料無償化、給食費補助の上乗せ
- ・医療機関との連携による病児保育の実施
- ・地域子育て支援拠点の充実

ii 子どもの生きる力を育成する保育・教育の充実

市内の公立、私立の保育所、認定こども園の新規採用保育士を確実に確保することにより、保育所、認定こども園の受け入れ態勢の強化や保育の質を確保します。

また、配慮が必要とされる児童と保護者を支援するキッズサポートセンター（仮称）を設置し、ライフステージに応じた切れ目のない支援体制を整えます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
待機児童数	0人 (H30)	0人 (R6)

【具体的な取組】

- ・保育所・認定こども園の受け入れ体制の整備
- ・保育士確保対策の推進
- ・配慮が必要と思われる児童と保護者を支援するキッズサポートセンター（仮称）の設置
- ・食育の推進（きときとキッズ料理教室、あったかご飯給食など）
- ・木育の推進

④ 基本目標4 次代を担う子どもを育む学校教育の実現

i 教育に関わる経済的負担の軽減

進学にかかる費用を貸与する奨学制度や、返済助成制度により教育に関わる経済的負担を軽減することで、子どもたちが安心して質の高い教育を受けられる環境を整えます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
ぶり奨学プログラム登録者数	166人 (H30)	350人 (R4)

【具体的な取組】

- ・奨学金貸与の実施
- ・奨学金返済助成プログラムの実施（ぶり奨学プログラム等）
- ・経済的な不安を抱える家庭への支援（修学援助、ひとり親家庭等への支援等）

ii 子どもの生きる力を育成する学校教育の充実

I C T教育の更なる推進や、外国語教育の充実、探究型教育の推進など子どもが自ら学ぶ教育環境を整えます。

【重要業績評価指標】		基準値	目標値
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	小学生	81.7% (R1)	90.0% (R6)
	中学生	87.0% (R1)	90.0% (R6)

【具体的な取組】

- ・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等の配置による心のケア支援の充実
- ・外国語教育・国際理解教育の推進
- ・I C T環境の整備とI C T教育の推進
- ・氷見をフィールドとした地域との関わりを生かした魅力的な教育機会の創出

⑤ 基本目標5 仕事と家庭を両立しながら、子育てを楽しみと感じられる社会の実現

i 子育てと両立するワーク・ライフ・バランス（仕事と私生活の調和）の推進

働き方改革によるワーク・ライフ・バランスを推進し、子育てに参画しやすい環境を整えます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
子育てと仕事が両立しやすい環境であると感じている市民の割合 ※	58.0% (R1)	65.0% (R6)
仕事と子育ての両立ができていると思う市民の割合※	69.4% (R1)	75.0% (R6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

【具体的な取組】

- ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組の強化

ii 職場と子育て支援施設の連携

安心して子どもを預け、仕事と家庭を両立できる環境を目指します。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
市内保育所・認定こども園の延長保育実施率	80% (H30)	100% (R6)

【具体的な取組】

- ・延長保育、休日保育の実施
- ・男性の家事・育児の参加の促進、育児休業の取得の促進

iii 子どもが安心して遊び・学ぶことができる環境の整備

子育てしたい街日本一を目指すため、氷見で子どもが安心して遊び・学べる環境の整備を進めます。

【重要業績評価指標】	基準値	目標値
子どもが安心して遊べる環境であると感じる市民の割合 ※	54.0% (R1)	60.0% (R6)
海浜植物園の入園者数	45,000人 (H30)	65,000人／年間 (R6)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

【具体的な取組】

- ・新・放課後子ども総合プランの推進
- ・子どもが安心して遊び・学べる場の整備（朝日山公園、海浜植物園）
- ・通学時の安全確保対策の推進